公益財団族人 けやき文化財団食催

○祝・敬老 船生かぶき村 劇団暁公演 3p

と き▶9月11日(日)

開場:午後1時30分 開演:午後2時 終了予定:午後3時40分頃

ところ▶市民ホール

販 売▶市民ホール受付

問合せ➡市民ホール☎789-1113



○「べに花ふるさと館」の食事割引き

内容▶うどん、そばを75歳以上の人は 半額88歳以上の人は無料で提供 します。

期間▶9月1日(木)~30日(金)の午前11時 ~午後8時(注文は午後7時まで)

- ※日曜日・月末は混雑します。早め の平日の利用をおすすめします。
- ※月曜日は休館です。

ただし、19日(月・祝)は開館し ます。

利用方法▶8月下旬に郵送される「食 事券(はがき) | を提示してくだ 412

※期間中1回限定・本人のみ有効

問合せ■べに花ふるさと館

☎729 **−** 1611

老人福祉センター事業

申込み・問合せ□老人福祉センター☎728-1122

老人福祉センターにおいでください。

◎カラオケ発表会

と き▶9月21日(水)午前10時開始

対 象▶市内在住の60歳以上の人

申込み▶8月31日(水)午前9時から ※ 先着 60 人

○お楽しみ風呂(ひのき湯)

と き▶ 9月23日(金)・24日(土)





◎敬老福引大会

と き▶ 9月18日(日)・19日(月・祝)

午前10時開始

福引券配布▶9月1日休午前9時から

対 象▶老人福祉センター利用者

◎うどん号

とき 9月6日(火)・14日(水)

午前11時15分出発

※老人福祉センターから、べに花ふるさと 館へ往復送迎バスを運行します。

長寿を祝して

9月敬老事業のご案内

詳しくは□高齢介護課

9月19日の敬老の日を迎えるにあたり、長年にわたって社会に貢献され、また桶川市 を暖かく見守り、育てていただいた皆様に心から感謝し、お祝い申し上げます。

わが国の平均寿命も延び、国際的にも長寿国の一員となっております。これもひとえ に皆様方の日ごろの健康管理へのご努力と、医療の進歩が要因に挙げられます。

そうした高齢者の方お一人おひとりが、これまで の豊富な知識と経験を生かし、健康で充実した生活 を送れますよう、また生涯にわたって生きがいを持 ち、安心して暮らすことができますよう、ご祈念申 し上げまして9月の敬老事業をご案内します。



敬老祝金の贈呈

対象者の年齢	贈呈金額	贈呈方法
満80歳、88歳、90歳、99歳 および101歳以上 ※1	10, 000円	民生委員を通じて9月下旬に贈呈予定 ※施設入所、不在がちなどで振込を希望する 人は8月19日頃までに高齢介護課へ連絡し てください。
満100歳	100,000円	市から直接、誕生月に贈呈

※1 満年齢は、平成28年度内に迎える年齢です。

地域等敬老事業助成事業

自治会や地域などが行う敬老事 業に対して、その事業費の助成を 行います。



市内循環バス「べにばな GO」の 無料乗車

象▶75歳以上の人

利用期間 ▶ 9 月 1 日休)~30日金

利用方法▶8月下旬に郵送される「バス無

料乗車券(はがき)|を提示し てください。

3 2016.8

坂田地区における施設づくりについて

詳しくは■企画調整課

坂田地区、坂田東西保留地(以下、計画地)において「公共機能と民間機能が複合した施設づくり」を進めています。

【計画地位置図】



□計画地について

計画地は、桶川駅から直線距離で約1.7kmの場所に位置し、周辺は土地区画整理事業により道路や公園などが整備され、幼稚園や小・中学校が近接した良好な住宅地となっています。



□施設づくりの概要

日常の生活利便性の向上や地域の交流、活動などコミュニティの醸成の場となる施設として「生活利便」「健康長寿」「生涯学習」を基本に、公共施設と民間施設が複合した施設として計画を進めています。

【施設づくりの考え方】

生活利便

日常生活に必要となる生活利便施設を 複合的に配置

健康長寿

健康で意欲的な生活を営むため 運動する機会の提供

生涯学習

自由な学習機会を提供する施設を 複合的に配置

【施設イメージ】



※公共施設部分の規模は2,100㎡程度で計画しています。

□公共施設について

市が運営する公共施設については、体育室や図書館 といった運動や学習など、多様な活動ができる施設と して利用者の視点で計画を進めていきます。

□民間施設について

民間施設については、公共施設との機能連携や相乗 効果が図られることを基本に、整備主体となる民間事 業者を公募により選定していきます。

□整備手法および予定について

今回、市では新しい取組みとなる「民間活力を導入した公民連携手法」による施設整備を進めています。施設の完成は、平成30年度中を予定しています。詳しくは、市ホームページをご覧ください。

平和を考える10日間

8月6日~15日

詳しくは□自治文化課

市では、過去の戦争を振り返り、平和への願いを次の世代に伝えていくことを目的に、昭和57年から、毎年8月6日~15日の期間を「平和を考える10日間」として、平和をテーマにした、さまざまな事業を行っています。

サイレンを吹鳴します

一分間の黙とうの呼びかけを行います。

8月6日出午前8時15分 広島原爆投下時刻

8月9日似午前11時2分 長崎原爆投下時刻

8月15日(月)正午 終戦の日

事業名	とき	ところ	内容
平和に関する写真などの展示	8月1日(月)~ 15日(月)	駅構内 見る観るコーナー	原爆に関連する写真および資料展示
平和のキャンペーン	8月5日金 午前7時30分頃	駅周辺	市議会議員と市職員による街頭キャンペーン
平和図書コーナー	8月6日(土)~ 15日(月)	市内図書館 ※休館日を除く	平和関係図書の展示 貸出コーナーの設置
平和へのメッセージ ※平成28年度協働推進提案事業	8月6日(土)~ 15日(月)	マイン3階 OKEGAWA hon プラス+	市民によるイベントや平和の木の作成 など ※詳しくは下の表をご覧ください。

「平和へのメッセージ」プログラム

※時間は変更する場合があります。

	午前10時30分~正午	午後1時~3時
6 日(土)	響け平和のうたごえ(埼玉合唱団)	平和の大型紙芝居・アニメ・朗読 (ボランティアグループ紅花の会)
7日(日)	ハンドベルコンサート☆ハピネス☆(ホワイトベル)	笑いは平和の原点 (桶川寄席「りんどう」)
。ロ(n) ギターの調べと歌を唄うひととき		オカリナコンサート(オカリナフレンズ)
	(ハーモニーギター同好会)	平和の願いをハーモニカで(アドニスファイブ)
0月43 手遊び、わらべ歌、絵本を楽しもう		朗読 永井隆著「この子を残して」(朗読とギターの会)
u H(W)	- 歴し、わらく歌、松本を来しもう (桶川子どもの本の会)	平和の調べ(桶川三曲協会)
10日(水)	オカリナコンサート(リトルバード)	瑠璃色の地球 世界を歌でつなぐ(コーログリーングラス)
11日 (木・祝)	アニメ「最後の空襲くまがや」・体験談(岡部玲子さん)	紅花の郷から平和の讃歌を(桶川ハーモニカクラブ)
12日金	平和の大型紙芝居・アニメ・朗読 (ボランティアグループ紅花の会)	桶川飛行学校からのメッセージ (旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会)
13日(土)	平和の大型紙芝居・アニメ・朗読 (ボランティアグループ紅花の会)	アニメ「少年兵の告白」朗読 他(さんふらわぁ)
14日(日)	平和の大型紙芝居・アニメ・朗読 (ボランティアグループ紅花の会)	平和の大型紙芝居・アニメ・朗読 (ボランティアグループ紅花の会)
15日(月)	71年前の今日、桶川三井精機の日誌 (協力:歴史民俗資料館)	

※()内は出演者または団体

私



体験しましたので、 私は山梨の甲府に生まれて 僅かな記憶を頼りに体 歳の時空襲を

で闇に包まれた甲府の上空にB29が高度1 小高い土手の上に登って見ると、灯火管制 が甲府全域に鳴り響きました。近所の人と 差別攻撃で日本本土の焦土化を行いました。 の東京大空襲以後は「軍事施設・人口密集 甲府もその例に漏れず、 サイパン島・テニアン島に戦略爆 空襲も本格化し、3月10日未明 突如「警戒警報」のサイレン 油脂焼夷弾による無 昭和20年7月6 昭和20年 日

から募集して毎年広報へ掲載してきました。今昭和62年から「私の戦争体験記」として戦地での体験や戦時中の生活の体験を、市民の皆さんへの願いを次の世代に伝えていくことを目的に、不の願いを次の世代に伝えていくことを目的に、市では、「平和を考える10日間」の事業の一 記のご応募をいただきましたので、ご紹介いた年度も8月15日の終戦の日にあわせて戦争体験 します。 トルで侵入、 甲府北部の「愛宕山」

全域は焼夷弾が次々に投下され大火災とな 頂上付近に投下された照明弾を頼りに市内

更に熱風を避けて池に飛び込み水面に浮か 泣き叫ぶ子供、精根尽き果てうずくまる老婆 ぶ死体等々現世の地獄を見る思いでした。 ん坊の頭を下にして背負う母親、親を見失い 壊され逃げ場を失った多くの人々、 共に焼け落ちた様子、荒川に架かる橋が破 が悉く消失、特に一蓮寺の大伽藍が轟音と 空襲後30分ほどで油臭い小雨が降りま 岡島百貨店・甲府市役所・工場・住宅など また赤

県山武郡睦岡村にある妙宣寺へ疎開するこ

茅場国民学校の3年生は千葉

行ってくれることになった。千葉県への旅

は、私の戦争体験を辿る旅となった。

から電話があり、とてもなつかしく会いた 緒に疎開し、今も千葉県に住んでいる友人 寺は、私が疎開していた地である。当時

> 感じた。 分かり、

その瞬間、

肉親の血のつながりを

弟がこの大空襲で亡くなったと父から聞

いが、

た。本堂からではぼんやりとしか分からな

私は父と兄であることがはっきりと

くなり、

孫が車で友人宅と妙宣寺へ連れて

ており、風呂にはたまにしか入れず、 とになった。寺ではみんな夜になると泣

髪に

の服を作った。

終戦の玉音放送はラジオで

に通い、

藁で綱を編み、

桑の皮で兵隊さん

は家族は離れ離れに暮らした。私は小学校

いる修善寺に移ることになった。 兄と一度東京に戻り、その後、 だと言って私を迎えに来たのだった。 かされた。こんど誰か死ぬ時はみんな一緒

父と

父の親戚の 修善寺で

焼夷弾羽屯の記録が残されています。 消失破壊などの被害を受けました。米軍で はB29が31機に将兵34名が搭乗、投下した 因みにこの空襲では、死者1, 8 9 8 戸 中 1 8, 248名・行方不明者35名・ 094戸が 1 2 7名:

前日の夜の東京大空襲により、

遠くまで飛

3月10日の朝は、黒い灰がいっぱいだった。 本堂までの間の落ち葉をほうきではいた。 歌の歌詞が次々と思い出されてきた。

寺には杉がたくさんあり、毎朝、

門から

戦争体験記



小林 (下日出谷在住)

大きな枝垂桜がある千葉県山武市の妙官

あるとき、

門の入り口に2つの人影がたっ

まちこさん

の階段に座り、迎えに来る家族をみていた。迎えに来るようになった。私はいつも本堂疎開した生徒の家族がぽつりぽつりと寺に

甲府の街 空襲



内藤 武さん (川田谷在住)

日夜11時頃、 地」を攻撃目標とし、 になると、 本本土への爆撃基地としました。 撃機B2が離着陸できる飛行場を建設、 昭和19年7月、

マリ アナ諸島を占領

験を綴りました。

は枝垂桜があった。この枝垂桜をみて、疎の間は、№mほどの長い参道があり、横にはしらみがたくさんいた。寺の門から本堂

開していた学校の先生が歌を作った。「江は枝垂桜があった。この枝垂桜をみて、疎

訪れたことで、当時の記憶が走馬灯のよう友人からの電話がきっかけで、妙宣寺を

聞いた。戦後、東京の小岩に一時身を寄せ、

東橋で生まれ育ったふるさと後に集団疎開

妙宣寺に行くまでは、記憶に全くなかった 強く大きくなれ、春を待つ、春を待つ…」

執筆を思い立った。今、

肺の病気を患って

※ご応募いただいた原文をそのまま掲載しています。

枝垂

桜の咲いている時期に妙宣寺をまた訪れた おり、今後どうなるか分からないが、 記として残したいという思いから、今回の に次々に蘇ってきた。この記憶を戦争体験

寺に行った途端に記憶がよみがえり、

重軽傷者1. 全戸数25, な感情を抱いた記憶は今でも鮮明です。 」なのか、子供ながら薄気味の悪い不吉。それが「油」なのか「人間の焼けた臭

絶対に起こしてはならないものなのです。 のは破壊と殺戮のみ、悪の最たるもので、 戦争には善戦も聖域もありません。有る



小川 ーさん (故人)

いたのは工場ではなく自宅であった。い天気であったように思う。玉音放送を聞 の天候は定かではないが、 むし暑

から、 はっきりしない やむを得ず、 事情のもとで、 あったのかも知れない。或は、険悪な交通 これは、恐らく、前日に重大発表がある 自宅で待機して聞くべしとの指示が 自宅にいたのか、そのへんは、 工場まで行くことができず、

在、

私達は平和を謳歌し、

飽食の日々に明

で聞いたのである。 ともあれ、 玉音放送は、 家族と共に自宅

7

いるのではなかろうか

した記憶はないが、茫然自失のたか。48年前の出来事であり、 敗戦の事実を聞いたときは、 ったかと思う。 茫然自失の状態ではな どうであっ

終ったかという感慨と、これで自分は死な そして、又、長い長い戦争が、

に対して不感症になっていた。そして、 けであり、私の終戦時までの生涯は、戦争 少期から少年期は戦争に明け暮れていたわ うな気がする。 なくて済んだという安堵感が湧いてきたよ 戦争に行って死ぬであろうとい 昭和5年に生を受けて以来、 幼

なかった。 うことを観念し、 それほど、恐怖感、 死というものに対して、 抵抗感を抱いたことは

終戦の

H

むしろ、 犠牲にして敵艦に突っ込む戦法に対して、 真珠湾攻撃、 身を捨てて国に殉ずるということに、 無謀な戦法という感じは、さらさら 共感を憶えたものである。 神風特攻隊など自分の身を

考えが底流にあったように思う。 そして、 ほかの人も死ぬのだからという単純な 何よりの諦めは、自分だけでな

前述のような安堵感をもったのであろう。 が終戦の報のあと、堰を切ったように崩れ、 このような死に対する張り詰めた考え方

終戦の日から既に長い年月が経過し、

現

け暮れている。 ない世代には、 この平和な日々の実感は、 当然のこととして受けとめ 戦争を経験し

端な世相を対比することにより、 和の有難さを、 あの暗黒な時代を生きた者のみが、 かみしめることができるの 強烈に平 両極

ではなかろうか。

時代が浮ばれない このように考えなければあの炎色の青春

えるのである。 死生観を顧みると、 そうは云っても、 背筋の寒くなるのを憶 あの当時の諦めに似た

※原稿は、 体験記をご提供いただいたものです。 故人が平成5年頃に執筆された

く行くは、

東京大空襲と私



遠藤 敏勝さん

(朝日在住)

ねた。 明るくなった頃、 弾投下の恐怖に体中が震えた。 あ!!今日も無事だった」 とおさまった。防空壕からはい上り、 光が床板のスキ間からもれるたびに、焼夷 ヒュウ・ゴーツの音と焼夷弾炸裂による閃 えながら、 まじい爆音とゴーツという焼夷弾の音に怯 学校3年生の時である。B29爆撃機のすさ 暗闇の床下防空壕にもぐり込んだ。私が小 い空襲警報のサイレンで飛び起き、 昭和20年3月10日未明、 夢中で祖母と念佛を唱えていた 激しく続いた空爆もやっ と思いきり 私はけたたまし 白々と空が 素早く 飛び跳

が水につかったり、上向・がり、重なり合っていた。 ガの残骸と茶色に焼けただれた金庫がぽつ んだ。筏の上に多数の人がゴロゴロところ んと立っていた。歩く道も熱く、 り続ける焼け跡を見回すと、銀行の赤レン 瓦礫の山と化していた。 行った。見渡す限りの焼け野原。 る風も熱く感じた。帰り道で、黒船橋から を見ると、異様な光景に呆然と立ちすく 深川が焼夷弾にやられ ブスブスとくすぶ たと聞 ・下向でぷかぷか 焼死体、下半身 いて、 すべてが 顔をよぎ 見に

> は川下の り果てた姿を前にして、 凍死した人達なのだ。 苦しまぎれに水を求め、 これは焼夷弾による焦熱地獄をさまよ 急に恐ろしくなり夢中で家に帰った。 いている人、 はるか彼方まで続いてい などであった。この様子 ボォー 笩の上で窒息死か ・と見て た。変わ

この行列は数日間も続き「この人達は何処 満ち、うつむいてモクモクと牛歩してい け懸命に引いていた。人々の表情は疲労に 見た。顔は煤で黒くよごれ、手に鍋釜をさ へ行くのだろう」と心配した。 は、リヤカーに山ほどの家財道具を括り 焼夷弾によって焼け出された人々の行列を 午後に都電通りに出ると、 大きな風呂敷包を背負っていた。中に 深川・本所で Ó

の 日、 生活から解放されたのは8月15日終戦。 メンだ!!」と心から叫んだ。 「長い間ありがとう。 防空頭巾をかぶり、 お世話になった防空壕をのぞきこみ もう二度と空爆はゴ 必死に耐えた防空壕 そ

「あ

※黒船橋…越中島と門前仲町に架る橋 木場の材木の集積場所

のちの伝言頒布

布しています 皆さんから寄せられた戦争体験記を頒 昭和62年から平成18年の間に市民の

②続いのちの伝言(20円 ①いのちの伝言(50円)

詳しくは□自治文化課

時と、関東大震災の

たのは、

東京大空襲の

んできた灰だった。ここまで灰が飛んでき

時の2回だけだそうだ。

東京大空襲により、

東京は焼野原とな

坂田地区における施設づくりについて

詳しくは■企画調整課

坂田地区、坂田東西保留地(以下、計画地)において「公共機能と民間機能が複合した施設づくり」を進めています。

【計画地位置図】



□計画地について

計画地は、桶川駅から直線距離で約1.7kmの場所に位置し、周辺は土地区画整理事業により道路や公園などが整備され、幼稚園や小・中学校が近接した良好な住宅地となっています。



□施設づくりの概要

日常の生活利便性の向上や地域の交流、活動などコミュニティの醸成の場となる施設として「生活利便」「健康長寿」「生涯学習」を基本に、公共施設と民間施設が複合した施設として計画を進めています。

【施設づくりの考え方】

生活利便

日常生活に必要となる生活利便施設を 複合的に配置

健康長寿

健康で意欲的な生活を営むため 運動する機会の提供

生涯学習

自由な学習機会を提供する施設を 複合的に配置

【施設イメージ】



※公共施設部分の規模は2,100㎡程度で計画しています。

□公共施設について

市が運営する公共施設については、体育室や図書館 といった運動や学習など、多様な活動ができる施設と して利用者の視点で計画を進めていきます。

□民間施設について

民間施設については、公共施設との機能連携や相乗 効果が図られることを基本に、整備主体となる民間事 業者を公募により選定していきます。

□整備手法および予定について

今回、市では新しい取組みとなる「民間活力を導入した公民連携手法」による施設整備を進めています。施設の完成は、平成30年度中を予定しています。詳しくは、市ホームページをご覧ください。

平和を考える10日間

8月6日~15日

詳しくは□自治文化課

市では、過去の戦争を振り返り、平和への願いを次の世代に伝えていくことを目的に、昭和57年から、毎年8月6日~15日の期間を「平和を考える10日間」として、平和をテーマにした、さまざまな事業を行っています。

サイレンを吹鳴します

一分間の黙とうの呼びかけを行います。

8月6日出午前8時15分 広島原爆投下時刻

8月9日以午前11時2分 長崎原爆投下時刻

8月15日(月)正午 終戦の日

事業名	とき	ところ	内容
平和に関する写真などの展示	8月1日(月)~ 15日(月)	駅構内 見る観るコーナー	原爆に関連する写真および資料展示
平和のキャンペーン	8月5日金 午前7時30分頃	駅周辺	市議会議員と市職員による街頭キャンペーン
平和図書コーナー	8月6日(土)~ 15日(月)	市内図書館 ※休館日を除く	平和関係図書の展示 貸出コーナーの設置
平和へのメッセージ ※平成28年度協働推進提案事業	8月6日(土)~ 15日(月)	マイン3階 OKEGAWA hon プラス+	市民によるイベントや平和の木の作成 など ※詳しくは下の表をご覧ください。

「平和へのメッセージ」プログラム

※時間は変更する場合があります。

	午前10時30分~正午	午後1時~3時
6 日(土)	響け平和のうたごえ(埼玉合唱団)	平和の大型紙芝居・アニメ・朗読 (ボランティアグループ紅花の会)
7日(日)	ハンドベルコンサート☆ハピネス☆(ホワイトベル)	笑いは平和の原点 (桶川寄席「りんどう」)
。ロ(n) ギターの調べと歌を唄うひととき		オカリナコンサート(オカリナフレンズ)
	(ハーモニーギター同好会)	平和の願いをハーモニカで(アドニスファイブ)
0月43 手遊び、わらべ歌、絵本を楽しもう		朗読 永井隆著「この子を残して」(朗読とギターの会)
u H(W)	- 歴し、わらく歌、松本を来しもう (桶川子どもの本の会)	平和の調べ(桶川三曲協会)
10日(水)	オカリナコンサート(リトルバード)	瑠璃色の地球 世界を歌でつなぐ(コーログリーングラス)
11日 (木・祝)	アニメ「最後の空襲くまがや」・体験談(岡部玲子さん)	紅花の郷から平和の讃歌を(桶川ハーモニカクラブ)
12日金	平和の大型紙芝居・アニメ・朗読 (ボランティアグループ紅花の会)	桶川飛行学校からのメッセージ (旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会)
13日(土)	平和の大型紙芝居・アニメ・朗読 (ボランティアグループ紅花の会)	アニメ「少年兵の告白」朗読 他(さんふらわぁ)
14日(日)	平和の大型紙芝居・アニメ・朗読 (ボランティアグループ紅花の会)	平和の大型紙芝居・アニメ・朗読 (ボランティアグループ紅花の会)
15日(月)	71年前の今日、桶川三井精機の日誌 (協力:歴史民俗資料館)	

※()内は出演者または団体

私



体験しましたので、 私は山梨の甲府に生まれて 僅かな記憶を頼りに体 歳の時空襲を

で闇に包まれた甲府の上空にB29が高度1 小高い土手の上に登って見ると、灯火管制 が甲府全域に鳴り響きました。近所の人と 差別攻撃で日本本土の焦土化を行いました。 の東京大空襲以後は「軍事施設・人口密集 甲府もその例に漏れず、 サイパン島・テニアン島に戦略爆 空襲も本格化し、3月10日未明 突如「警戒警報」のサイレン 油脂焼夷弾による無 昭和20年7月6 昭和20年 日

から募集して毎年広報へ掲載してきました。今昭和62年から「私の戦争体験記」として戦地での体験や戦時中の生活の体験を、市民の皆さんへの願いを次の世代に伝えていくことを目的に、不の願いを次の世代に伝えていくことを目的に、市では、「平和を考える10日間」の事業の一 記のご応募をいただきましたので、ご紹介いた年度も8月15日の終戦の日にあわせて戦争体験 します。 トルで侵入、 甲府北部の「愛宕山」

全域は焼夷弾が次々に投下され大火災とな 頂上付近に投下された照明弾を頼りに市内

更に熱風を避けて池に飛び込み水面に浮か 泣き叫ぶ子供、精根尽き果てうずくまる老婆 ぶ死体等々現世の地獄を見る思いでした。 ん坊の頭を下にして背負う母親、親を見失い 壊され逃げ場を失った多くの人々、 共に焼け落ちた様子、荒川に架かる橋が破 が悉く消失、特に一蓮寺の大伽藍が轟音と 空襲後30分ほどで油臭い小雨が降りま 岡島百貨店・甲府市役所・工場・住宅など また赤

県山武郡睦岡村にある妙宣寺へ疎開するこ

茅場国民学校の3年生は千葉

行ってくれることになった。千葉県への旅

は、私の戦争体験を辿る旅となった。

から電話があり、とてもなつかしく会いた 緒に疎開し、今も千葉県に住んでいる友人 寺は、私が疎開していた地である。当時

> 感じた。 分かり、

その瞬間、

肉親の血のつながりを

弟がこの大空襲で亡くなったと父から聞

いが、

た。本堂からではぼんやりとしか分からな

私は父と兄であることがはっきりと

くなり、

孫が車で友人宅と妙宣寺へ連れて

ており、風呂にはたまにしか入れず、 とになった。寺ではみんな夜になると泣

髪に

の服を作った。

終戦の玉音放送はラジオで

に通い、

藁で綱を編み、

桑の皮で兵隊さん

は家族は離れ離れに暮らした。私は小学校

いる修善寺に移ることになった。 兄と一度東京に戻り、その後、 だと言って私を迎えに来たのだった。 かされた。こんど誰か死ぬ時はみんな一緒

父と

父の親戚の 修善寺で

焼夷弾羽屯の記録が残されています。 消失破壊などの被害を受けました。米軍で はB29が31機に将兵34名が搭乗、投下した 因みにこの空襲では、死者1, 8 9 8 戸 中 1 8, 248名・行方不明者35名・ 094戸が 1 2 7名:

前日の夜の東京大空襲により、

遠くまで飛

3月10日の朝は、黒い灰がいっぱいだった。 本堂までの間の落ち葉をほうきではいた。 歌の歌詞が次々と思い出されてきた。

寺には杉がたくさんあり、毎朝、

門から

戦争体験記



小林 (下日出谷在住)

大きな枝垂桜がある千葉県山武市の妙官

あるとき、

門の入り口に2つの人影がたっ

まちこさん

の階段に座り、迎えに来る家族をみていた。迎えに来るようになった。私はいつも本堂疎開した生徒の家族がぽつりぽつりと寺に

甲府の街 空襲



内藤 武さん (川田谷在住)

日夜11時頃、 地」を攻撃目標とし、 になると、 本本土への爆撃基地としました。 撃機B2が離着陸できる飛行場を建設、 昭和19年7月、

マリ アナ諸島を占領

験を綴りました。

は枝垂桜があった。この枝垂桜をみて、疎の間は、№mほどの長い参道があり、横にはしらみがたくさんいた。寺の門から本堂

開していた学校の先生が歌を作った。「江は枝垂桜があった。この枝垂桜をみて、疎

訪れたことで、当時の記憶が走馬灯のよう友人からの電話がきっかけで、妙宣寺を

聞いた。戦後、東京の小岩に一時身を寄せ、

東橋で生まれ育ったふるさと後に集団疎開

妙宣寺に行くまでは、記憶に全くなかった 強く大きくなれ、春を待つ、春を待つ…」

執筆を思い立った。今、

肺の病気を患って

※ご応募いただいた原文をそのまま掲載しています。

枝垂

桜の咲いている時期に妙宣寺をまた訪れた おり、今後どうなるか分からないが、 記として残したいという思いから、今回の に次々に蘇ってきた。この記憶を戦争体験

寺に行った途端に記憶がよみがえり、

重軽傷者1. 全戸数25, な感情を抱いた記憶は今でも鮮明です。 」なのか、子供ながら薄気味の悪い不吉。それが「油」なのか「人間の焼けた臭

絶対に起こしてはならないものなのです。 のは破壊と殺戮のみ、悪の最たるもので、 戦争には善戦も聖域もありません。有る



小川 ーさん (故人)

いたのは工場ではなく自宅であった。い天気であったように思う。玉音放送を聞 の天候は定かではないが、 むし暑

から、 はっきりしない やむを得ず、 事情のもとで、 あったのかも知れない。或は、険悪な交通 これは、恐らく、前日に重大発表がある 自宅で待機して聞くべしとの指示が 自宅にいたのか、そのへんは、 工場まで行くことができず、

在、

私達は平和を謳歌し、

飽食の日々に明

で聞いたのである。 ともあれ、 玉音放送は、 家族と共に自宅

7

いるのではなかろうか

した記憶はないが、茫然自失のたか。48年前の出来事であり、 敗戦の事実を聞いたときは、 ったかと思う。 茫然自失の状態ではな どうであっ

終ったかという感慨と、これで自分は死な そして、又、長い長い戦争が、

に対して不感症になっていた。そして、 けであり、私の終戦時までの生涯は、戦争 少期から少年期は戦争に明け暮れていたわ うな気がする。 なくて済んだという安堵感が湧いてきたよ 戦争に行って死ぬであろうとい 昭和5年に生を受けて以来、 幼

なかった。 うことを観念し、 それほど、恐怖感、 死というものに対して、 抵抗感を抱いたことは

終戦の

H

むしろ、 犠牲にして敵艦に突っ込む戦法に対して、 真珠湾攻撃、 身を捨てて国に殉ずるということに、 無謀な戦法という感じは、さらさら 共感を憶えたものである。 神風特攻隊など自分の身を

考えが底流にあったように思う。 そして、 ほかの人も死ぬのだからという単純な 何よりの諦めは、自分だけでな

前述のような安堵感をもったのであろう。 が終戦の報のあと、堰を切ったように崩れ、 このような死に対する張り詰めた考え方

終戦の日から既に長い年月が経過し、

現

け暮れている。 ない世代には、 この平和な日々の実感は、 当然のこととして受けとめ 戦争を経験し

端な世相を対比することにより、 和の有難さを、 あの暗黒な時代を生きた者のみが、 かみしめることができるの 強烈に平 両極

ではなかろうか。

時代が浮ばれない このように考えなければあの炎色の青春

えるのである。 死生観を顧みると、 そうは云っても、 背筋の寒くなるのを憶 あの当時の諦めに似た

※原稿は、 体験記をご提供いただいたものです。 故人が平成5年頃に執筆された

く行くは、

東京大空襲と私



遠藤 敏勝さん

(朝日在住)

ねた。 明るくなった頃、 弾投下の恐怖に体中が震えた。 あ!!今日も無事だった」 とおさまった。防空壕からはい上り、 光が床板のスキ間からもれるたびに、焼夷 ヒュウ・ゴーツの音と焼夷弾炸裂による閃 えながら、 まじい爆音とゴーツという焼夷弾の音に怯 学校3年生の時である。B29爆撃機のすさ 暗闇の床下防空壕にもぐり込んだ。私が小 い空襲警報のサイレンで飛び起き、 昭和20年3月10日未明、 夢中で祖母と念佛を唱えていた 激しく続いた空爆もやっ と思いきり 私はけたたまし 白々と空が 素早く 飛び跳

が水につかったり、上向・がり、重なり合っていた。 ガの残骸と茶色に焼けただれた金庫がぽつ んだ。筏の上に多数の人がゴロゴロところ んと立っていた。歩く道も熱く、 り続ける焼け跡を見回すと、銀行の赤レン 瓦礫の山と化していた。 行った。見渡す限りの焼け野原。 る風も熱く感じた。帰り道で、黒船橋から を見ると、異様な光景に呆然と立ちすく 深川が焼夷弾にやられ ブスブスとくすぶ たと聞 ・下向でぷかぷか 焼死体、下半身 いて、 すべてが 顔をよぎ 見に

> は川下の り果てた姿を前にして、 凍死した人達なのだ。 苦しまぎれに水を求め、 これは焼夷弾による焦熱地獄をさまよ 急に恐ろしくなり夢中で家に帰った。 いている人、 はるか彼方まで続いてい などであった。この様子 ボォー 笩の上で窒息死か ・と見て た。変わ

この行列は数日間も続き「この人達は何処 満ち、うつむいてモクモクと牛歩してい け懸命に引いていた。人々の表情は疲労に 見た。顔は煤で黒くよごれ、手に鍋釜をさ へ行くのだろう」と心配した。 は、リヤカーに山ほどの家財道具を括り 焼夷弾によって焼け出された人々の行列を 午後に都電通りに出ると、 大きな風呂敷包を背負っていた。中に 深川・本所で Ó

の 日、 生活から解放されたのは8月15日終戦。 メンだ!!」と心から叫んだ。 「長い間ありがとう。 防空頭巾をかぶり、 お世話になった防空壕をのぞきこみ もう二度と空爆はゴ 必死に耐えた防空壕 そ

「あ

※黒船橋…越中島と門前仲町に架る橋 木場の材木の集積場所

のちの伝言頒布

布しています 皆さんから寄せられた戦争体験記を頒 昭和62年から平成18年の間に市民の

②続いのちの伝言(20円 ①いのちの伝言(50円)

詳しくは□自治文化課

時と、関東大震災の

たのは、

東京大空襲の

んできた灰だった。ここまで灰が飛んでき

時の2回だけだそうだ。

東京大空襲により、

東京は焼野原とな